

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年1月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

○ **記事のカテゴリー**（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[注目記事](#)

[安全性関連情報](#)

[不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[海外公的機関情報](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）](#)

[その他の注目研究・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

記事の見出し、出典・日付、URL、（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。

■ 注目記事

東京栄養サミット 2021 アクションプラン「日本の食関係者の具体的な行動計画」を発表 農林水産省

スポーツ栄養 WEB - 2021/12/23 <https://sndj-web.jp/news/001632.php>

12月7～8日に開催された「東京栄養サミット 2021」に関連し、農林水産省のサイトに、アクションプランと食関係者の取り組みに関するレポートが掲載された。アクションプランに賛同する日本の食関係者から発表された、健康的で持続可能な食料システムの構築に向けた行動が紹介されている。-----

追記：記事後半に「62の団体・企業からの行動計画」の見出しで、味の素株式会社、不二製油グループ本社株式会社、株式会社ユーグレナ等の行動計画に言及しています。

上の記事からリンクされている行動計画を示した62団体・企業のリスト。20社以上の食品関連企業がリストされています。

N4G コンパクトの実施に向けた日本の食関係者の具体的な行動計画 東京栄養サミット 2021

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/seisaku/n4g2021/action_plan.html

岸田首相が明言した「国民の栄養状況の更なる改善」は実現するか

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/7

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00010/010600079/>

「地球温暖化を防ぐための食事スタイル」体にも地球にもやさしい”SDGs な食事”とは？

スポーツ栄養 WEB - 2022/1/4 <https://sndj-web.jp/news/001623.php>

健康によくない食べ物は地球の温暖化をも招くと指摘する論文が発表された。どうやら、食事摂取ガイドラインを遵守し、健康によいとされる植物性食品ベースの食生活とするほうが、地球にやさしい”SDGsな食事”と言えるようだ。英国リーズ大学の研究者らが報告している。-----

■ 安全性関連情報

[EFSA]新規食品としてのターメリック(ウコン)由来テトラヒドロクルクミノイドの安全性

[BfR]食品サプリメントのクルクミン：許容一日摂取量を超えている可能性がある

食品安全情報 blog2 - 2021/12/24

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/12/24/172942>

欧州のリスク評価に係る公的機関（欧州食品安全機関、ドイツ連邦リスク評価研究所）関連情報です。上から 1、2 番目の見出しコンテンツです。

[EFSA]意見等

-新規食品としてのトンカットアリの根抽出物の安全性

-新規食品としてのミジンコウキクサ粉末の安全性

食品安全情報 blog2 - 2021/12/27

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/12/27/173729>

欧州食品安全機関（EFSA）関連情報です。27 日分の最初の部分です。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 1 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1 月 7 日 12 時時点ではありません。

2021 年 12 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12 月はありませんでした。

食品安全情報（化学物質） No.01 (2022.01.05)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202201c.pdf>

気になった見出しは以下の通りです。

【BfR】

1. フードサプリメントのクルクミン：許容一日摂取量を超えている可能性がある

【FDA】

1. FDA はアカシア（アラビアガム）を食物繊維とする市民請願を許可する

食品安全情報（化学物質） No. 26/ 2021 (2021. 12. 22)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202126c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【WHO】

1. WHO は新たな約束で栄養目標への作業を加速する
3. WHO ヒト健康リスク評価ツールキット：化学的ハザード、第二版

【EFSA】

2. ビスフェノール A：EFSA の意見案は耐容一日摂取量の引き下げを提案す

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

みその日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/12/27

<https://public-comment.e->

gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003416&Mode=0

（受付締切日時：2022年1月25日23時59分）

■ 海外公的機関情報

ASEAN サプリメント規制、GMP 必須に 来秋目途に統合へ（連載：話題追跡）

健康メディア.com - 2022/1/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15780

ASEAN では、来秋を目途にヘルスサプリメント規制が統一される見通しだ。海外展開を行う事業者にとって、年率 5%超で成長を続ける ASEAN サプリメント市場への関心は高く、業界団体への問い合わせも増えている。規制枠組みのキーワードとなるのは「GMP 必須」となる点だ。-----

以下の 4 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の 2021 年 12 月 22 日更新情報の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、欧州食品安全機関\(EFSA\)による二酸化チタンの再評価結果に関する意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象：2021 年 11 月 30 日\)](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象：2021 年 11 月 29 日\)](#)

[欧州委員会\(EC\)、ハーブとスパイスの真正性に関する初の欧州連合域内調査の結果を公表](#)

[記事のカテゴリに戻る](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

「美味」+「機能性」で付加価値創出（特集 健康茶）

健康メディア.com - 2021/12/20

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15747

今年の健康茶市場は、美容訴求のルイボスティーや黒豆茶、腸活訴求のごぼう茶、ノンカフェインのハーブティーやタンポポ茶、アカマツやアブラマツの葉から作られる松葉茶の需要が目立った。家庭用では外出自粛やテレワーク浸透による巣ごもり需要が市場を後押し。「味・機能性」を訴求する健康茶の引き合いが強まった。原料では紅茶テアフラビンの苦み低減や血糖値上昇抑制などに注目が集まっている。-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした

■ 消費者意識等の調査・分析

矢野経済研究所、高齢者の食事実態と食ニーズ探索に関する消費者アンケート調査、「外食」や「旅行」などのリベンジ消費に期待

マイライフニュース - 2021/12/24

<https://www.mylifenews.net/data/2021/12/post-104.html>

矢野経済研究所は、65歳以上の高齢者男女1230名を対象に消費者アンケート調査を実施し、コロナ禍における高齢者の食事と栄養、健康と安全、行動様式の変化など、心理面や行動面の変化について分析した。その結果、コロナ禍の中、高齢者の趣味や運動、食事と栄養、食料品の購入場所などが変化。外出自粛が影響し、「外食」や「旅行」などのリベンジ消費に期待が高まる。-----

ウーマンウェルネス研究会 supported by Kao、血圧と内臓脂肪に関する調査、血圧を高くする要因の一つが内臓脂肪であることを知っている人は26.7%

マイライフニュース - 2021/12/27

<https://www.mylifenews.net/data/2021/12/supported-by-kao267.html>

女性の健康力向上を通じた社会の活性化への貢献を目指す「ウーマンウェルネス研究会 supported by Kao」は、自身の血圧と内臓脂肪に関し、首都圏在住の887人（40代～60代男女）を対象に調査を実施した。その結果、血圧を高くする要因の一つが内臓脂肪であることを知っている人は26.7%だった。正月や新年会など塩分・脂質の多い食事は要注意で、高めの血圧を予防するには「血圧」と「内臓脂肪」のダブルケアが重要であると啓発する。---

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

アミノ酸などの摂取が筋肉の老化を改善しハエの寿命を延ばす、都立大などが確認

マイナビニュース - 2021/12/29

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211229-2241290/>

以下の6件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2021年12月22日～2022年1月7日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

炎症誘発性の食事は、中高年成人のフレイル発症のオッズの増加と関連（2021/12/22）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76738&lay=lay&Find.html>

炎症誘発性食品（例えば、単純糖質または飽和脂肪が豊富な食品）が多い食事を定期的に摂取することは、中高年期のフレイル発症のリスク増加と関連しているようだ、という米国マーカス加齢研究所などからの研究報告。-----

運動が老化を遅らせるためのカギを発見？（2021/12/22）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76739&lay=lay&Find.html>

運動が我々の健康を改善するメカニズムのカギとなる酵素を発見した、という豪州モナッシュ大学からの研究報告。2型糖尿病を含む代謝健康に対する加齢の影響を防ぐような新薬の開発につながるものだという。-----

フレイルを減らすと認知症リスクが下がる？（2022/1/4）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76783&lay=lay&Find.html>

高齢者のフレイルを減らすことは、認知症を予防するための効果的な戦略である可能性があるようだ、という英国エクセター大学などによる研究報告。-----

海産性オメガ-3 系脂肪酸はうつ病の予防に役立たない？ (2022/1/4)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76784&-lay=lay&-Find.html>

海産性オメガ-3 系脂肪酸サプリメントの使用はうつ病の予防に役立たないようだ、という米国マサチューセッツ総合病院などからの研究報告。-----

超加工食品の害を明らかにするための健康キャンペーン (2022/1/5)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76797&-lay=lay&-Find.html>

超加工食品の深刻な健康影響に関する強力なエビデンスにもかかわらず、巧妙な業界のマーケティング戦術により、そのリスクが暗闇に包まれており、人々が騙されている可能性が高いことから、タバコのようなますます強力な健康警告が必要だ、と公衆衛生の専門家らは主張している。-----

赤肉と心血管疾患リスクをつなぐ腸内細菌 (2022/1/5)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76798&-lay=lay&-Find.html>

赤肉と心血管疾患リスクの間には腸内細菌の関与が指摘されているが、リスクを高める分子を産生する細菌は、長期の菜食主義者にはほとんど見られないことがわかったという。米・クリーブランド・クリニックの研究。-----

以下の記事は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2021 年 12 月 22 日~2022 年 1 月 7 日) から選定したものです。

スポーツ栄養学における「生理活性ペプチド」の可能性 今わかっていることのまとめ (2022/1/5)

<https://sndj-web.jp/news/001619.php>

----- 「スポーツ栄養学における生理活性ペプチドの潜在的関連性 (Potential Relevance of Bioactive Peptides in Sports Nutrition)」というタイトルのレビュー論文が「Nutrients」に掲載された。ペプチドの、体組成、持久力パフォーマンス、筋損傷、タンパク質合成、炎症、酸化ストレス、腱組織などへの影響を、既報文献から考察しまとめたもの。一部の要旨を抜粋して紹介する。-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ その他の注目研究・技術情報

心血管疾患を予測する細胞の行動パターンを発見

リンク DE ダイエット – 2022/1/7 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.1.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76819&-lay=lay&-Find.html>

循環する好中球（免疫細胞の一種）が炎症過程でさまざまな行動パターンを獲得することを発見した、というスペイン・国立心血管系疾患研究センター（CNIC）からの研究報告。本研究は、心筋梗塞の影響を最小限に抑えるための新しい治療法につながる可能性のある重要な情報を提供するものであるという。-----

運動 3 カ月で高齢者の脳皮質が増し認知機能が向上、京都大学が報告

大学ジャーナルオンライン - 2021/12/23 <https://univ-journal.jp/135413/>

京都大学大学院の積山薫教授らの研究グループは、3 カ月間の運動介入により高齢者の認知機能が向上し、脳の構造（皮質容積や皮質厚）が変化することを明らかにした。-----

健常者の軽度コルチゾール上昇、筋力・筋肉量の低下と因果関係—九大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/4

[http://www.qlifepro.com/news/20220104/cortisol.html](http://www qlifepro.com/news/20220104/cortisol.html)

コルチゾール分泌上昇による筋力・筋肉量低下への影響、観察研究ではその因果関係は不明
九州大学は 12 月 22 日、メンデルランダム化（MR）研究により、健常者において軽度なコルチゾール上昇が筋力・筋肉量の低下と因果関係を有することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究院の小川佳宏教授、馬越真希日本学術振興会特別研究員 RPD、同大大学院医学系学府の勝原俊亮大学院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism」に掲載されている。-----

同じ研究についての記事です。こちらの方では閲覧制限はありません。

筋力・筋肉量の低下と副腎由来ホルモンの上昇に因果関係、九大が確認

マイナビニュース - 2021/12/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211223-2237487/>

カオスな腸内細菌叢を新たな指標「 α ディフェンシン」で制御する

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/5

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/122200260/>

動脈硬化のリスクを尿の成分から評価できる可能性、阪大が確認

マイナビニュース - 2021/12/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211223-2237500/>

“性能アップ”と“省人化”の提案加速（特集：健食製造機器）

健康メディア.com - 2021/12/22

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15760

錠剤・カプセル・顆粒をはじめとした健康食品の製造を支える機器メーカーでは、独自技術やノウハウを活用し、製造能力と作業性を両立した機器の開発・提案を進めている。受託企業の課題を解決する各種製造機器を紹介する。-----

老化細胞除去薬の開発で見えてきた「健康寿命 120 歳」の可能性

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/7

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/010400007/>

[記事のカテゴリに戻る](#)

以上